

南アジアとパレスチナ問題

平成 26 年 11 月 8 日
愛知国際法小研究会
(都留文科大学)
水野光朗

1. 本報告の目的

1. 結論を導き出すのではなく、今後明らかにする必要がある問題点を整理する。
2. パレスチナ問題に、南アジアがどのように対応してきたのかを明らかにする。
3. パレスチナ問題と国連（特に安保理）との関わり合いについては、意識的に触れない。
4. 南アジア各国が、パレスチナ問題について、国連でどのような主張を行ってきたのかについても、意識的に触れない。（例えば、国連安保理におけるインドの投票行動は、インドの対外政策を反映しているとは言い切れない。）

2. 基礎データ

南アジア各国のイスラエル・パレスチナの国家承認

	イスラエル	パレスチナ
インド	1992年1月	1988年11月
パキスタン		1988年11月
バングラデシュ		1988年11月
ネパール	1960年6月	1988年12月
ブータン		1988年12月
スリランカ	2000年5月	
モルジブ		1988年11月

3. 南アジア各国とイスラエル

a) インドとイスラエル

分離独立（1947年）前後	会議派：宗教に基づくイスラエル建国に反対（例えば、マハトマ・ガンディー）。 他方、ユダヤ人が、パレスチナの地で独自の国を作ることに賛成。 ジャンサンガ：宗教に基づくユダヤ（教）国家であるイスラエルの建国に賛成。
1960～70年代	会議派政府、インド国内のムスリムの反発をおそれて、イスラエルの国家承認に消極的。
1992年1月	インド、イスラエルと外交関係樹立。ただし、インドは、パレスチナ占領地におけるイスラエルの軍事行動を非難。
2000年	ジャスワント・シン外相、イスラエル訪問。
2003年	シャロン首相、訪印。これ以降、安全保障、テロ対策、科学技術分野における協力関係を拡大。

ただし、最近では、インド国内で、インドの政策があまりにもイスラエル寄りであるという批判も。

b) パキスタンとイスラエル

1947年の分離独立以来、一貫してイスラエルを国家承認せず。

4. 南アジア各国とパレスチナ

a) インドとパレスチナ

分離独立前後	インド、パレスチナ人の自決権を支持。
1975年	PLO、ニューデリーに連絡事務所を設置。
1980年	インド、PLOと full diplomatic relations 樹立。
1996年6月	インド、ガザに代表部を設置。

b) パキスタンとパレスチナ

一貫してパレスチナ人の自決権とパレスチナ国家の樹立を支持。

パレスチナとカシミールを同列視。

「パレスチナ人に自決権を認めるのであれば、カシミール（の人々）にも自決権を認めるべき。」

Hina Rabbani Khar 外相 (*The Tribune Express*, September 24, 2011.)

5. SAARC とパレスチナ問題

1. SAARC は、一貫してパレスチナ支持の立場を取り続けている。

2. SAARC は、従来、パレスチナ問題について、見解を表明してこなかった（回避していた？）が、1997～98年に、見解を表明するようになった。

a) SAARC 第 9 回首脳会談（1997 年 5 月 12～14 日；マレ）

マレ宣言：

各国は、中東和平の進展に支持を表明しつつも、[イスラエル] 占領地域 (occupied territories) における和平プロセスに逆行するような動き、パレスチナ人に対する無差別的な暴力、そして、イスラエルによるパレスチナ占領地 (the occupied Palestinian territories) においてユダヤ人入植地を設置し、拡大しようというイスラエル政府の政策に起因する和平に対する脅威に、懸念を表明する。各国は、和平プロセスは全当事者が関与して継続されなければならないとの立場をとる。さらに、各国は、自決とパレスチナ人を唯一合法的に代表 (sole legitimate representative) し、隣国と平和的かつ協調して共存することができる PLO 指導の下で、単一の主権国家 (a sovereign State) を樹立する権利を含むパレスチナ人民 (the Palestinian people) の奪うことのできない権利を回復させることをも要求する。

b) SAARC 第 10 回首脳会談（1998 年 7 月 29～31 日；コロンボ）

コロンボ宣言：

各国は、国連においてパレスチナにより広範な地位が与えられたことを歓迎する。しかしながら、エルサレムの法的地位と境界を変更しようという違法な試みを含む中東和平プロセスに逆行する数多くの動向に、さらなる懸念を表明する。

6. イスラエルとパレスチナが持つ「二つの顔」

イスラエル	ユダヤ教徒の国家	宗教に基づく
	ユダヤ人の国家	世俗主義（政教分離）
パレスチナ	ムスリムの国家	宗教に基づく
	パレスチナ人の国家	世俗主義（政教分離）

	イスラエル		パレスチナ	
	ユダヤ教徒の国家	ユダヤ人の国家	ムスリムの国家	パレスチナ人の国家
インド	不支持	支持	不支持	支持
パキスタン	不支持	不支持	支持	不支持？

表面だけ見ると、インドは、イスラエルとパレスチナ双方を支持している。

7. 小括

- a) イスラエルとパレスチナについて、「二つの顔」を持つ、という解釈に問題はないか。
- b) パレスチナ問題についての SAARC の政策に関する二つの下の問題設定に問題はないか。
 - 1. SAARC が、一貫してパレスチナ寄りの姿勢をとっているのは、なぜか。
 - 2. SAARC が、1997～98 年に、パレスチナ問題について見解を表明するようになったのは、なぜか。